

ハンドボールの味

比本陽え助



私が初めてハンドボールに関係を持ったのは高等学校一年の時でしたが、そのきっかけは私の友人が先輩の丸山氏を知って、いまして入学後一週間程して丸山氏が「一寸ハンドボールをやってみないか、何時やめてもいいから」と云う部員勧誘の常套手段で誘われ、ついふらくと入部したのでした。それから現在まで七年間、私も今ではハンドボールと切っても切れな縁を持つ様になったのですが、考えて見るとハンドボールは「タバコ」の様に一度味を覚えるとなかなかやめられぬものの様です。しばしば感じる事なのですが、合宿などで猛練習している時、もうハンドボールの練習はやりたくないと思う事があります。それでも一ヶ月程練習しないと、したくはり私もハンドボールの虫持になります。や

私が初めてハンドボールの試合に出してもらったのは、手校は確か桜塚高校だ、と思えますが、あの雨が降

る。藤井寺球場での試合で、私はその時私のポジションはバックとして公式戦に出たのはこの時一回きりで、その後ずっとゴールの外へ出してもらえませんでした。私が現役の頃の部員の面々はと云えば、先ずマネジャールでバックをやっていた精進型の佐竹君、彼は私が着替えるのが遅いので運動場を余計に一周走らされた時、よく一緒に歩いて走ってくれました。次は大きな手の持ち主で、一度ボールを持ったら相手に絶対ボールを取られないうアワードの金沢君。それに突進型で時には退場を命ぜられた大西君。又バックの今村君は私達が三年の時、この一戦に勝てば西日本大会に行けると、この時に腕を抜いてしまつて、我軍のバックス陣がたくと来て負けた事がありました。その他ドロップシュート専門の棚橋君、先代「ブリキ」の小林君等の面々で、私が主将をして、いた当時の戦績を少し申し上げてみますと、必ずいただきの相手校は少なく市立工芸高校、生野高校ぐらいで、一度府下高校室内ハンドボール大



会でベストフオーアになつた事がありました。又当時強かつた高校は豊中高校、住吉高校だつたと思ひます。室内ハンドボールと云へば、私には忘れられない、大變に面白い経験があります。というのは、ある室内ハンドボール大会の準々決勝、対淀川高校との試合で接戦となり、延長でも勝負が決らず、遂に抽選する事になりました。そこで私はトスをやりそれに勝つたのはよかつたのですが、トスに勝つたので先にくじを引くとそれがなんと負けくじで、とう／＼その試合に負けた事がありました。その時本當にハンドボールにも判定勝というものがあつたらなあと思ひ、思ひ泣くに泣けない気持でした。又こゝも思ひました、ハンドボールのキャプテンは運の強いものがならんといかんなあと思ひました。私運がやつていた頃の練習は週に四回程でしたが、しかし練習内容はかなりきついでした。特に合宿等には当時関学でハンドボールをやつておられた榎本、津田両氏がよく来て下さつて色々新しい本格的な練習を受けました。私が今でも覚えてゐる練習は、両足を紐でしばられキーパーのジャンプの練習をさせられた事です。この様な練習を受けていた時など先輩と云うのは恐いなあへ特にお犬橋本氏が来られた時には皆競々として

いたものですが、とばかり思つてしまつたが、しかし卒業してみると今度は先輩と云うのは有難いものだなあなどと勝手な考えをしたものでした。私が現役の頃の思ひ出の中で書き忘れてはならない事が他にも一つあります。それは「女子ハンドボール部の創設」であります。その創立の動機は、他校のハンドボール部は男女仲よくやつてるのに、我々が指をくわえてそれをうらやましがつて見ているのはどうもつらんやと云うので、それでは早速作らうと、田中先生、先輩諸氏と我々が部員を勧誘して正式に作つたのでした。当初私と同期の佐竹君等と女子ハンドボール部一期の北野氏、徳見氏、菊井氏、吉川氏その他数名の仲間を誘つて作つたのですが、初めのうちは後々迄続くかと思つて、初めのですが、今日では皆様の尽力で立派に成長しつゝあるのを見るにつけ私達も大變うれしく思つてゐる次第です。個人的な事ですが、私も今年で七年間続けて来た現役としてのハンドボール生活とも別れ、今後ハンドボールをやる事もほとんどありませんが、なんとか高津クラブを通じてハンドボールとのつながりを持ちたいと思つております。

皆様、今後共よろしく御願ひします。
一九六一年十二月十四日(陽)